

茅ヶ崎セントラルクリニック 金野 琢磨

功 績	正しい検査数値にて診療に臨める環境に改善した功績
推 薦 者	小田島 英明
推 薦 理 由	通常業務をこなしながら、患者さんに正確な数値を提供すべく職場環境を改善した取組に対して、理事長賞に推薦します。

内 容

金野は入職して5年目の臨床工学技士です。日々の業務にも真摯に向き合い、率先して業務の効率化に取り組んでいます。

今まで書類の大半が電子化されておらず、手書き業務が主でした。検査データも手書きでデータブックへ書き写していたため、写し間違いが多々あり、回診時に正確なデータを把握できていないという問題がありました。さらに医療職の採用が進まない中、その業務が職員に負荷となっていました。その現状を打破すべく、金野氏が中心となり、パソコンの知識を生かし、検査システム電子化PJがスタートしました。元々クリニック自体にパソコンを使用して業務を進めるという土壌がなく、新しいことに取り組むことへの職員の抵抗もありましたが、「専門的な高い知識による確かな医療を提供する」という理念に基づき粘り強く、電子化する意味を説く事で職員の意識も変化し、電子カルテに慣れた若い医師の多くが興味をもってくれた事もありますが、周囲を徐々に巻き込んでいきました。

結果、9月からの検査システムを電子化にし、看護師が手作業で行っていた検査データの書き写し業務が24時間/月削減され、それに伴いデータ書き写し間違いインシデントは”0件”となりました。また効率化が図られた事で、その分の人員を他の業務に充てる事が出来、適正な人員配置にもつながっていると考えます。タブレットによりいつでも正確な数値を閲覧でき、診療に臨めるようになったことは質の向上にもつながっているとも思います。

結果が伴い、効果が可視化されたことにより、あまり積極的でなかった職員にも、この業務も改善出来ないかと、自ら率先して課題を見つけ、改善する動きが見え始めた事も大きな波及効果だと思っています。

技士という業務だけでなく、それにプラスアルファし、チームとして患者さんにより良い診療を提供したいという高い意識が表れた事例だと思いました。